



菱の实

佐賀大学理工学部同窓会会報

2002.10.1

No.4

会長就任にあたって



会長 田中正和

理工学部同窓会が、1999年9月に設立されて以来、これまで副会長として同窓会の運営に参加してきましたが、このたび、会長に就任しました。任期は、平成14年9月1日から平成17年3月31日までとなっています。

現在、理工学部にあつては、海洋エネルギー研究センターの海洋温度差エネルギー、海洋流体エネルギー、海洋エネルギー物質、さらに海洋エネルギーシステムの研究が、文部科学省の世界最高水準の研究テーマと選定され、海洋エネルギー利用技術の研究開発の中核研究としてその成果が期待されています。

また、佐賀平野は、ほぼ全域が満潮時には海面下になるという佐賀の地理的、地史学的特徴のため、低平地、有明粘土等に関し、広くアジアの諸国と連携した研究が低平地研究センターで進められています。

さらには、佐賀県シンクロトン光応用研究施設が、平成16年度業務開始をめざして鳥栖に建設中であります。そこでは、ナノテクノロジー、新素材、環境・分析、生命科学及

び量子技術等の研究が予定されています。

これまで佐賀大学は霞ヶ関から見れば、地方の小さなひとつの大学であったろうと思います。しかし、ほぼ1年後の平成15年10月に佐賀医科大学と統合をひかえ、平成16年4月には独立行政法人となることがすでに決まっています。

このような中で、大学当局においては、上原学長を先頭に旧来の「孤独と自由」の大学から「競争と自由」の大学へ脱皮するとの認識のもとに、佐賀大学を世界の学問の拠点として再構築し、新しい知的財産を創造し、広く世界に発信すべく新しい総合大学像が模索されています。

佐賀の地域の人々から、佐賀大学は地域の役に立ち、佐賀にあることが必要だと感じられるように、また佐賀大学の同窓生達が佐賀にあり続けてほしいと願う大学となるために、大学の教職員の方々のいっそうの活躍が求められます。また、佐賀大学卒業生にあつても、それぞれの職場で、社会で、いっそう活躍す

ることが求められていると思います。

理工学部同窓会は、他の学部同窓会に比べて歴史が浅いので伝統はありません。その分自由に動けます。私は、理工学部同窓会は、単に同窓という懐かしさを求める同窓会ではなく、現在、社会の第一線で活躍されている同窓生の役に立つ同窓会でありたいと考えて

います。どうか御意見、御要望をお寄せください。

／プロフィール／

昭和42年佐賀県立神埼高校卒業
昭和43年理工学部化学科入学
昭和48年同上卒業
昭和48年佐賀県庁へ入庁
現在唐津保健所

平成14年度菱実会総会・講演会開催の報告

8月10日(土)午後4時から、佐賀大学菱の実会館において、平成14年度菱実会総会が開催された。開会の冒頭で、理工学部同窓会3期役員体制の紹介が行われ、田中正和会長より就任の挨拶をいただいた。その後、平成13年度事業報告及び決算報告がなされ、平成14年度事業計画及び予算案が種々活発な議論の後に承認された。

総会に引き続き、理工学部長長谷川照先生より理工学部の将来についてご講演をいただいた。来年秋に予定されている佐賀医科大学との統合などの理工学部が置かれている状況を明瞭に解説され、また魅力をもった研究活

動の重要性を指摘されるなど、大変内容のあるご講演であった。また、講演会後の懇親会には、佐賀大学学長上原春男先生がお忙しいなかにもかかわらずご出席され、上原先生、長谷川先生を囲みつつ、会員相互の有意義な交流がおこなわれた。



平成14年度事業計画

1. 会報の発行

- 1) 佐賀大学広報紙の送付
……………(年3回:1月、5月、9月)
- 2) 佐賀大学同窓会会報の送付
……………(年2回:1月、7月)
- 3) 理工学部同窓会会報の送付
……………(年1回:9月)
同窓生への定期便:2月、7月、10月
- 4) サイエнтиックを送付
……………(年1回:7月)

2. 会員の拡大

3. 同窓会名簿の管理と作成
4. 同窓会支部総会
5. 就職援助活動
6. 各種情報の提供
7. PR事業及び理工学部のPR
8. 佐賀大学及び他学部同窓会との連携
9. その他の事業
 - 1) 在学同窓生への援助
 - 2) 卒業祝賀会への援助
10. その他

「二度目の学生生活」

佐賀県立鳥栖工業高等学校

機械科教諭 森 祐二

私は、昭和60年3月に生産機械工学科を卒業しました。同年4月に佐賀県の工業高等学校教諭として佐賀工業高等学校の機械科へ赴任し、現在は鳥栖工業高等学校の機械科に籍を置いています。

就職して、習う立場から教える立場に変わったとき、自分が今まで勉強してきたことは、物事のほんの表面であり、いろいろなことに対する知識の無さを感じました。大学時代の教科書やノートを参考に高校で教壇に立ったのですが、工業（機械）について教えることの難しさを日々、痛感していました。

ちょうど、私が教諭になった頃、佐賀県の教育委員会で「佐賀大学大学院（修士課程）へ現職教員を派遣する」という制度が始まり、機会があれば是非希望したいと考えていました。しかし、この制度は、高校に籍を置きながら、大学院に派遣をしてくれるという有り難い制度で、希望者が多く、なかなか機会に恵まれませんでした。あっという間に16年の歳月が流れ、気が付くと40歳間近となっていました。

昨年5月頃、「希望を出すなら今年が最後だよ。」と学校長より言葉を頂き、「年齢的に大学院での勉強はちょっと難しいかな。でも、最後のチャンスだからな。」と思い、挑戦してみることにしました。

幸いなことに願いが叶い、現在、社会人学生として大学院工学系研究科機械システム工

学専攻の第1学年に在学し、海洋エネルギーについて研究をしています。機械システム工学科には、私が学生だった頃、お世話になった先生方も多くご健在で、あの頃の学生時代に戻ったような気がしています。

とは言っても、やはり17年ぶりの学生生活には戸惑いも多くありました。4月はじめ、現役学生（私が学生だった頃に生まれた若者）と一緒に学習してみて「ついていけそうにないな〜。」と不安を感じたのも事実です。

しかし、現在学長の上原先生をはじめ、恩師である大野先生、山田先生、金子先生、門出先生、瀬戸口先生、研究室の池上先生、その他諸先生方や研究室の学生諸君のお陰で、なんとか前期を修了することが出来ました。

後期も始まり、いよいよ研究に本腰を入れる時期となりました。来年は工業高校に復帰することになりますので、教育現場で生かせるよう研究はもとより、いろいろな学習・経験をしたいと考えています。

最後になりましたが、私を受け入れてくださった機械システム工学科の諸先生方に感謝申し上げますと共に、今後のご指導をお願いして結びとします。



(水産大学との合同研究セミナーに参加 九重にて)

理工学部同窓会 3 期役員名簿 (任期：平成14年9月1日 ～平成17年3月31日)

<理工学部同窓会>

<佐賀大学同窓会>

会 長	田 中 正 和 (化学48卒、唐津保健所)	副 会 長
副 会 長	中 島 道 夫 (化学47卒、文化教育学部)	副 理 事 長
副 会 長	椿 忠 彦 (物理53卒、唐津東高校)	
庶務幹事	穂屋下 茂 (機械49卒、理工学部)	庶 務
庶 務	荒 木 宏 之 (土木51卒、低平地)	資 料 収 集
庶 務	深 井 澄 夫 (電子53卒、理工学部)	
庶務組織	寺 山 康 教 (機械H1卒、理工学部)	名簿・情報
庶務組織	渡 邊 健 次 (物理62卒、理工学部)	名簿・情報
広 報	池 上 康 之 (生機61卒、IOES)	広 報
広 報	大 渡 啓 介 (工化H2卒、理工学部)	
広 報	後 藤 隆 太 郎 (土木H6卒、理工学部)	広 報
会 計	太 田 里 美 (数学48卒、佐賀市役所)	監 事
会 計	田 口 光 雄 (電気50卒、長崎大学)	
監 事	秋 永 正 幸 (機械45卒、王子製紙)	
監 事	前 山 道 明 (機械46卒、ミゾタ)	

菱実会の動き (平成13年12月～14年10月)

平成13年12月18日	理工学部就職懇談会への 支援(1学科卒業生講師 2名)	平成14年2月21日	理工学部就職懇談会への 支援 (1学科卒業生講師4名)
平成14年1月1日	理工学部同窓会会報 「菱の実」第3号発行	平成14年5月	理工学部同窓会会員名簿 発行
平成14年1月15日	理工学部就職懇談会への 支援 (1学科卒業生講師2名)	平成14年6月20日	理工学部同窓会役員会
平成14年1月25日	理工学部就職懇談会への 支援 (3学科卒業生講師1名)	平成14年8月8日	会計監査(平成13年度決 算分)
		平成14年8月10日	理工学部同窓会総会、講 演会
		平成14年10月1日	理工学部同窓会会報 「菱の実」第4号発行

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。

発行 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会

佐賀市本庄町1佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700

<http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/> E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 田中 正和 (S48・化) 編集代表者 池上 康之 (S61・生機)